



アクサ ユネスコ協会

減災教育

プログラム

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

／学ぼう！／



防災・減災教育が変わる！
3つのプランで学校を支援します。



子どもたちに 災害を生き抜く力を。

いつどこで発生するか分からない自然災害。
アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラムは、
今後日本各地で起こりうるさまざまな自然災害に備えて、
防災・減災教育を強化・改善したいと考える
小学校、中学校、高等学校を支援します。

災害時に地域の重要な防災・減災拠点となる学校の防災・減災力の向上を目指し、
避難訓練を中心とした従来型の防災活動にとどまらず、
災害に対して総合的な視点を持ち、
より実効性の高い防災・減災教育の実践を推進しています。

助成金、教員研修会、活動報告会・フォーラムという
3つの学校への支援事業を通じて、
未来を担う子どもたちが
自然災害について主体的に学び、考え、行動する力、
災害を生き抜く力を育む
防災・減災教育を支援します。



サポート① | 助成金

防災・減災教育に取り組みたいと考える
小・中・高校を全国から公募します。
審査の上、採用された学校に
助成金 10 万円を支援します。

サポート② | 教員研修会

助成校の先生が
東日本大震災の被災地を訪問し、
大震災の経験や教訓を基にした
防災・減災教育の実践を現地に学びます。
(旅費・宿泊費全額補助)

サポート③ | 活動報告会・フォーラム

活動報告会: 助成校の先生による実践発表
などを通じて学びを深めます。
フォーラム(公開): 日本各地の災害事例から
地域、校種を超えて多彩な実践を学びます。
(旅費・宿泊費全額補助)

減災ってなに？

「減災」とは、自然災害においては被害を完全に防ぐことが困難であることを前提に、命を守り被害をできるだけ最小限に抑えることを目指すもの。災害発生前、災害発生時、災害発生後のそれぞれで、私たちができることはなんでしょうか。



1人の先生が学べば、100人の生徒が学べる。

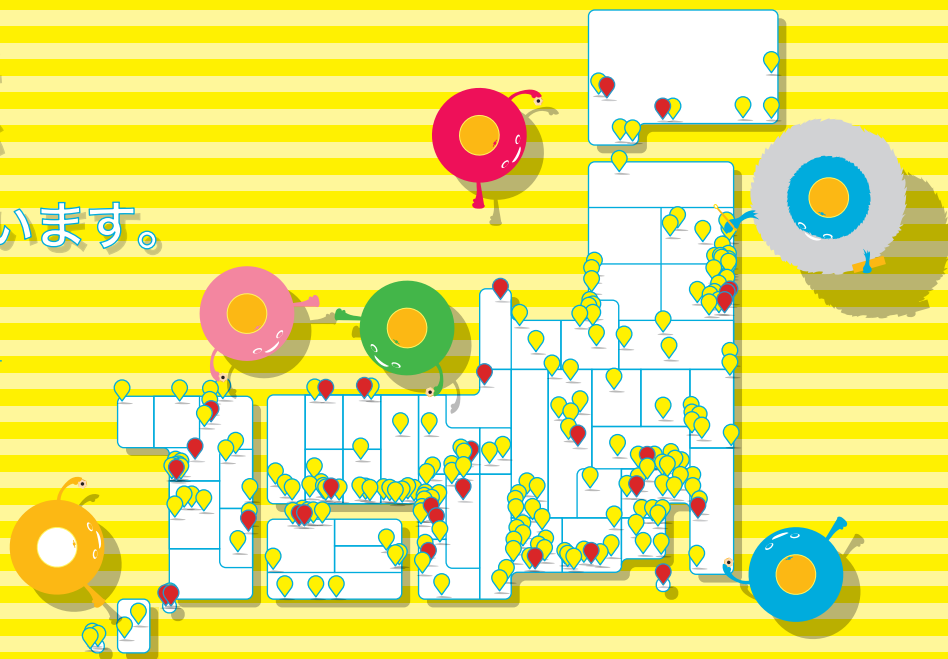
日本全国に
減災の輪が
ひろがっています。

92,584名

これまでの参加者 (2024年3月時点)

各学校が実施した助成活動に参加した
児童・生徒・保護者・先生・地域の方々の数です。
学校の取り組みがご家庭や地域にも広がっています。

● は、2023年度参加校の所在地
○ は、これまでの参加校の所在地



参加した先生方からの感想・これから参加される学校へのメッセージ

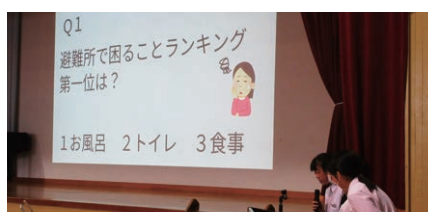
- 子ども、教員、地域が減災を自分事としてとらえ、意識を高めるために役立つ具体的な方法を学べます！綿密なプログラムが組み立てられているので、すべてが学びにつながります。
- 単なる減災教育にとどまらず、SDGsの学習にも活用できるプログラムです。探究学習を活用し、持続可能な社会に貢献できる人材を育成するための手がかりが見つかります。
- 減災教育をともに推進していける同じ思い、熱意を持った多くの仲間と出会うことが魅力です。
- 本プログラムで改善した減災教育を実践し、子どもが主体的に動けるようになり、地域との連携も強くなった。学校教育全体にプラス面が大きいです。
- 非常に学ぶことが多いプログラムでした。たくさんのアイデアをいただき、課題に気づき、学校に持って帰ることができました。もし転動しても次の学校で応募したいです。たくさんの先生方に参加してほしいプログラムだと思いました。
- 減災に対する当事者意識、イマジネーションを高めることができました。ぜひ参加して理論と実践を相乗的に高めてほしいです。

防災・減災教育に取り組みたい、防災・減災教育を見直したい・・・でも、学校予算がない。そんな学校のために、助成金 10 万円を支給します。

助成金概要

助成対象	今後起こりうる自然災害（例：地震、津波、台風、豪雨雪、洪水・・・等）に備えるための「防災・減災教育」に取り組む小学校、中学校、高等学校（義務教育学校、特別支援学校などを含む）
助成対象分野	「防災・減災教育」の授業や活動に必要なもの。 ※授業や活動は、募集年度の4月以降に開始し、3月末までに終了するものとします。
助成金額	1校につき助成金 10 万円
申請期間	4月～5月 ※具体的な期間は、当該年度の募集要項に記載します。
申請方法	所定の申請用紙（A4・2ページ）に、以下の内容を記入・捺印の上、日本ユネスコ協会連盟まで送付してください。 主な教科領域等／活動の実施期間／対象学年／参加生徒数／活動計画／概要／活動目的／具体的な内容／期待する活動の成果／申請理由／活動予算概要
審査・結果通知	審査会にて審査・選考した後、結果を通知します。
助成金の給付	助成金は採用校に対して8月頃に学校口座に送金します。
申請条件	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に実施する「教員研修会」（2泊3日開催）の全日程に、1校につき1名の教員（教諭以上）を派遣できること。 ・2月に開催する「活動報告会及び減災教育フォーラム」（1泊2日開催）の全日程に、1校につき1名の教員（教諭以上）を派遣できること。 ・活動終了後、3月末までに、活動報告書（A4・2ページ）と会計報告書（領収書の原本等を添付）を提出できること。

多彩な防災・減災教育に、助成金が活用されています。



東日本大震災の被災地・学校等を訪問し、大震災の経験や教訓をもとにした防災・減災教育の理論と実践を学びます。参加される先生の旅費・宿泊費は、本プログラムが全額補助します。

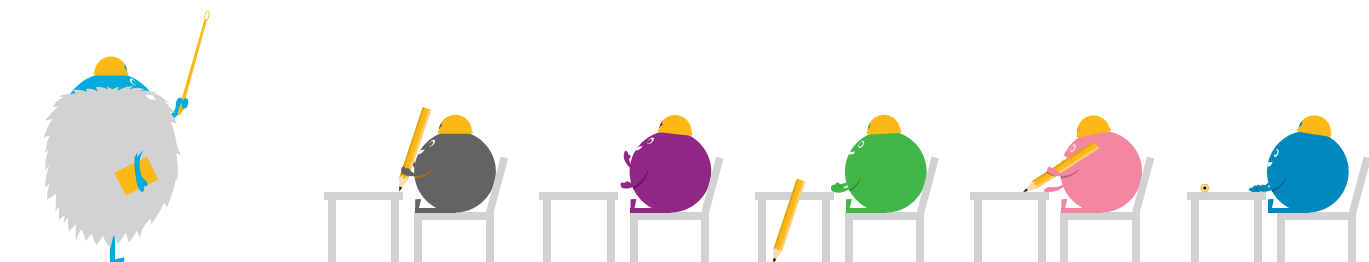
被災地をフィールドにした 体系的かつ実践的で 多彩な研修プログラム

被災地の風と匂いを感じ、
被災地の学校や子どもたち・地域と触れ合い、
被災地の教訓や防災・減災教育を共有し、
その経験と知見を自校に持ち帰って、
防災・減災教育の実践に役立てる。

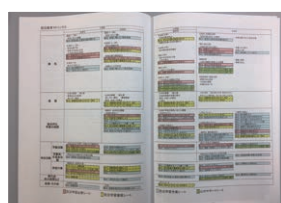
研修で学ぶの7つのポイント

1. ESD*/SDGsの理念と東日本大震災の教訓を生かした
防災・減災教育の理論
2. 防災・減災教育のカリキュラム開発の方法(防災学習シートの活用)
3. 小・中・高校、教育委員会の各レベルに応じた実践事例
4. 防災・減災教育の授業や取組の参観による生徒や教員との交流
5. 被災者の案内による東日本大震災の被災地の視察・巡検
6. 防災・減災教育推進への地域や関係機関との連携のシステム構築
7. 研修を生かした自校のカリキュラム改善のためのワークショップ

※ESD=Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育):持続可能な社会づくりの担い手を育む教育。環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会のさまざまな課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。(日本ユネスコ国内委員会「ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育(ESD)」より)



2. 防災・減災教育の
カリキュラム作りの
手法と活用事例を学ぶ



東日本大震災の被災地・気仙沼市を訪問

被災地の風と匂いを感じ、被災者や子どもたちと触れ合い、被災地の教訓や防災・減災教育を共有し、その経験と知見を自校に持ち帰って、防災・減災教育の実践に役立てることができます。



3. 小・中・高校における防災・減災教育の実践事例を学ぶ

気仙沼市の小学校で
授業視察



気仙沼市の中学校で
生徒主体の活動の発表と
生徒さんとの
意見交換・対話



高校の実践を学ぶ



1. 基礎理論講座 「災害を乗り越え生き抜く力を育む防災・減災教育」

- ・ 防災・減災教育の必要性とは？
- ・ 災害リスク／空間的・時間的視点とは？
- ・ 学校の災害危機管理と防災教育について
- ・ 防災・減災教育で求めるもの・育成する力とは？
- ・ 災害を知り、災害から学ぶ～東日本大震災の教訓から～
- ・ 東日本大震災が残した教訓(学び)とは？
- ・ 東日本大震災時の学校の状況と教育復興への道のり
- ・ 東日本大震災による教育施設の被災状況と
教育復興への道のり
- ・ 災害を乗り越え生き抜く力を育む防災・減災教育とは？

- ・ 児童生徒に災害への対応力(レジリエンス)を育む
防災・減災教育のカリキュラムへの改革について
- ・ 防災・減災教育を推進するためのネットワーク構築について
- ・ 多様な主体の参画と協働による
防災・減災教育ネットワーク(N助)の構築と実践について



4. 被災地の教員や 生徒との交流



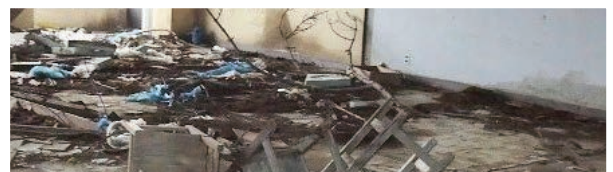
6. 防災・減災教育における N助の必要性(地域や 外部とのネットワーク) について学ぶ



7. 防災・減災教育の 質を高める ワークショップ



5. 被災地の視察・巡検(震災遺構の校舎等)



プラン③ | 活動報告会・フォーラム

助成校の先生方を東京に招聘し、助成活動の実践発表および情報交流・意見交換を行います。
参加される助成校の先生の旅費・宿泊費は、本プログラムが全額補助します。(フォーラムは一般にも公開します。)

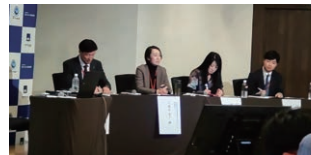
全助成校の先生による防災・減災教育の実践発表（活動報告会）

- 地域や校種を超えて、日本各地で行われたさまざまな災害リスクを想定した多彩な実践を共有します。
- 他校の実践を知ることで、自校にはない多様なアイデアや工夫、ノウハウを学びます。
- 専門家による指導・助言のもと、子どもたちの命を守るこれからの防災・減災教育のあり方についてディスカッションします。



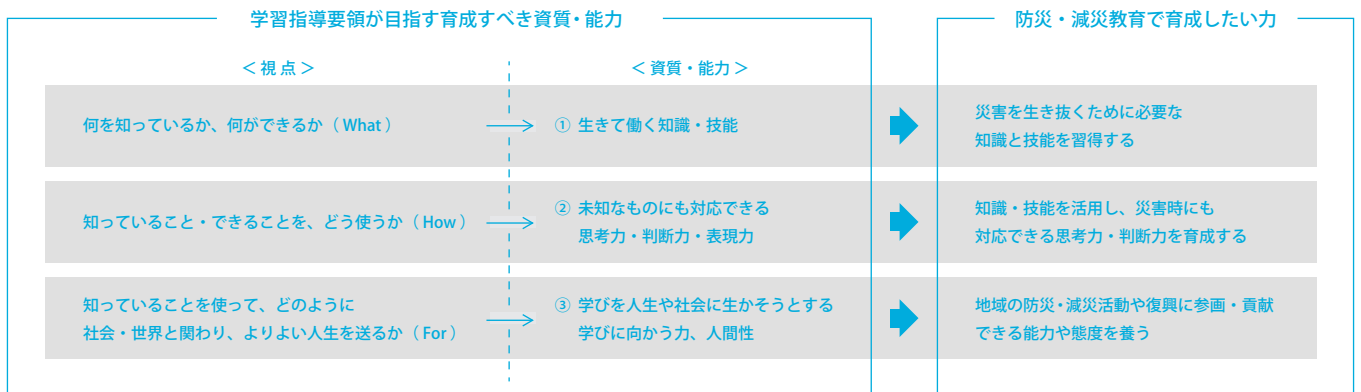
全国の減災の学びを学校や地域に生かす（減災教育フォーラム）

- 東日本大震災の記憶を風化させず、大震災の経験と教訓からの学びを日本各地の学校現場で生かし、防災・減災教育の強化につなげていくために、これからの防災・減災教育で重要な視点を整理します。
- 各地の被災地の実践事例を通して、全国の学校が、減災教育の持続発展に向けて学びを深めます。
- 専門家による講義やパネルディスカッション等を通して、新しい視点にたった防災・減災教育の知見を深めます。



学習指導要領：防災・減災教育で育成したい力とは ～「持続可能な社会の創り手の育成」のための防災・減災教育～

本プログラムでは、学習指導要領を目指す「育成すべき資質・能力の3つの柱」を見据えて、災害を取り巻く多様な観点から主体的・協働的な防災・減災教育に取り組むことができます。また、ESD/SDGsの観点から防災・減災教育を捉え、社会に開かれた防災・減災教育を推進します。



年間スケジュール ※各年度の具体的な日程は募集要項をご確認ください。

4月 公募開始 (～5月下旬 申請締め切り)	8月 学校へ助成金 10万円給付	2月 活動報告会・フォーラム
7月 選考、助成校決定	9月 教員研修会 (2泊3日)	3月末 最終活動報告書の提出

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

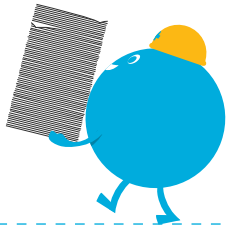
参加校募集！

毎年4月に公募します。

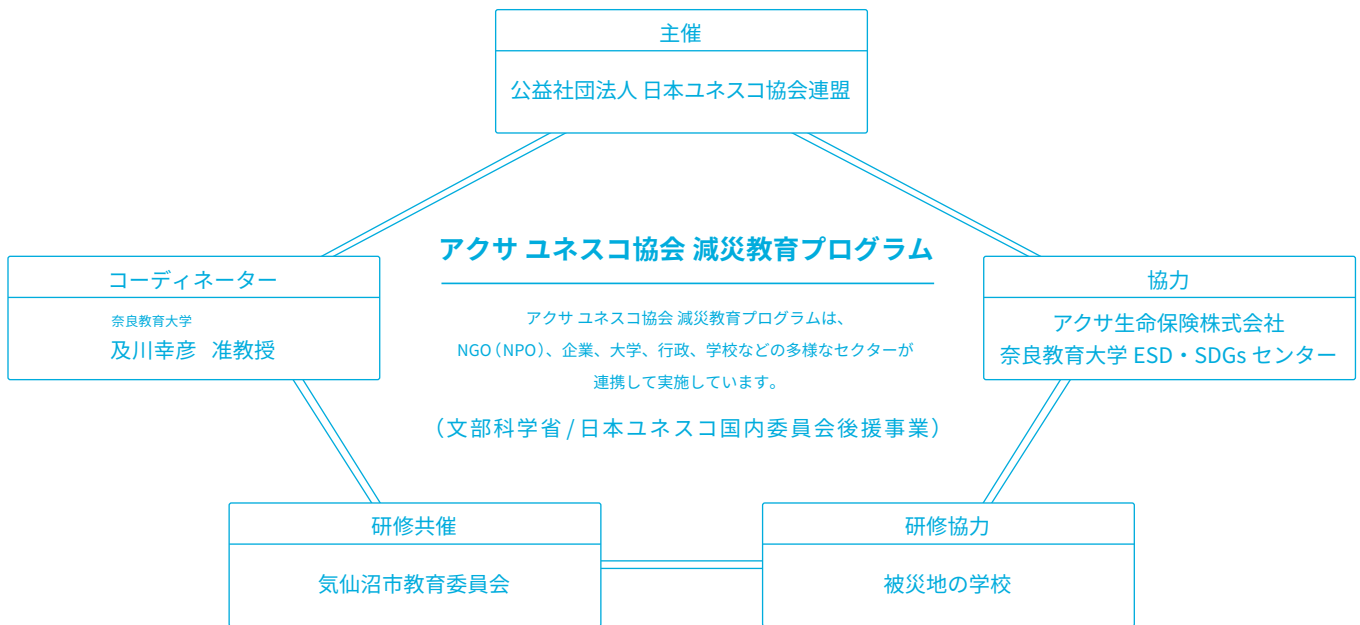
たくさんのご応募をお待ちしております。

募集要項・申請書様式は、

本プログラムのウェブサイトからダウンロードできます。



www.unesco.or.jp/gensai/



【お問い合わせ】

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟・減災教育係

〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿 1-3-1

朝日生命恵比寿ビル 12階

電話：03-5424-1121

メール：gensai@unesco.or.jp

Web サイト：www.unesco.or.jp/gensai/

日本ユネスコ協会連盟は、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」と語る UNESCO (国際連合教育科学文化機関) 憲章の理念にもとづき、国内外でさまざまな活動に取り組んでいます。

